

令和4年第36回定例公安委員会会議録

開催日時 令和4年12月15日(木)午後0時30分～午後4時20分

開催場所 警察本部各執務室、西部地区運転免許センター聴聞室(リモート)

第1 定例会議

1 開催時間 午後1時30分～午後2時35分

2 出席者

公安委員会 久本委員長 衣笠委員 勝部委員

警察本部 雲田警務部長 笠田首席監察官 前田生活安全部長
河本刑事部長 柴田交通部長 加藤警備部長
植木警察学校長 見垣情報通信部長

(事務局等～畔田公安委員会補佐室長、辻室長補佐)

3 議題事項

4 報告事項

- 女性職員活躍推進セミナーの開催結果(警務部)
- 大会出場関係報告(警務部)
- 令和5年「110番の日」における広報啓発活動(生活安全部)
- 交通部ベーシック研修会の開催(交通部)
- 冬期道路交通確保対策(交通部)
- 1月中の入校及び訓練概況等(警察学校)

(1) 女性職員活躍推進セミナーの開催結果(警務部)

警察本部

このセミナーは、女性職員の活躍推進の取組の一環として、女性職員のキャリア形成支援や働きやすい職場環境づくりにつなげることを目的として、平成

26年度から開催しており、過去の講師として、ワークライフバランスコンサルタントのほか、県福祉保健部長、鳥取銀行取締役、近年では、静岡県警察、和歌山県警察、京都府警察から女性幹部職員を招へいしている。この度は、広島県警察本部広報課長を講師に迎え、12月1日に警察本部において開催した。

第1部ではリモート出席を合わせて111人が聴講し、講師から「女性として組織の中で働くということ」と題して、自らの経験を踏まえた講演をしていただいた。第2部では、女性警察官、女性警察行政職員計10人と講師による意見交換を実施した。

開催の反響については、「警察は1人で仕事をしている訳ではないから、幹部になることへの自信がなくても昇任について前向きに考えていくことが大切であると感じた。」「女性と男性の視点が違うことを生かし、チームとしてカバーし合っていないといけないと実感した。」などの感想があった。

今後も工夫を凝らし、職員の意識改革を含め、継続的に女性の活躍推進に向けて取り組むこととしている。

委員

このセミナーは、平成26年から開催しているとのことであるが、大変素晴らしいセミナーであると思う。女性職員を同僚や部下に持つ男性職員も参加していることが特に素晴らしい。講演では、出産とその後の働き方、昇任に対する考え方など、良いポイントで話をいただいていると思う。反響を見ると前向きな意見が多いことから、是非、県警察からも警視を目指す方が誕生してほしい。女性活躍は、県警察だけでなく、日本の大きな課題でもあることから、このようなセミナーを今後も続けていただきたい。

委員

警察職員には、仕事と家庭の調和を図っていただきたい。

委員

講演の中で、講師が自らの体験を話されたとのことだが、出席者の方は、より自分のこととして、捉えることができたのではないかと思う。女性活躍は、警察のみならず、どの職場にも共通するテーマだと思うので、このような講演を幅広く共有できたらと思う。

仕事と家庭の両立は、女性職員のことというイメージがあるが、男性職員も両立していかなければならない。

(2) 大会出場関係報告（警務部）

警察本部

本年12月5日から7日までの間、警察大学校において、令和4年度全国警察柔道・剣道選手権大会が開催された。柔道大会及び剣道大会は、個人戦が実施され、結果は、剣道女子での3回戦進出が最高成績であった。

委員

コロナ禍で、あまり訓練ができなかったと思う。武道とは心技体を鍛えるもので、警察にとって大変重要なものである。勝つことだけを目的にするのではなく、このような大会を、心技体を鍛える場として活用していただきたい。

委員

指導しているのは、外部の指導者か。

警察本部

内部の指導者である。

委員

大きな大会に出場するのは、なかなかできない経験である。大会を通じて、集中力やチームワークなどが養われると思うので、日頃の警察活動の中で生かしていただきたい。

委員

引き続き、練習を積んで、警察官としてもしっかり活躍していただきたい。

(3) 令和5年「110番の日」における広報啓発活動（生活安全部）

警察本部

全国警察では、昭和61年から1月10日を110番の日と定めている。

110番通報は、広く定着している一方で、緊急性のない相談や問合せの通報も多いことから、110番通報を緊急通報手段として確保し、緊急ではない相談は#9110（警察総合相談電話）を推奨するなど、110番通報の適切な利用について、県民のより一層の理解と協力が得られるよう、広報啓発活動を推進することとしている。通信指令課では、テレビやラジオのニュース番組に出演して広報するほか、広報用ポスター及びウェットティッシュを作成し、配布する。また、令和4年10月から試行運用している「110番映像通報システム」について、県民の協力を得られるよう、引き続き、本システムの内容や留意点について周知を図っていくこととしている。各警察署においても、交番・駐在所が発行するミニ広報紙における広報やケーブルテレビ・防災無線等を活用して、街頭広報を行うこととしている。

110番通報の件数は、コロナ禍前は、毎年4万件を超えていたが、令和2年

は、コロナ禍の影響か、5千件以上減少し、過去10年で最も少なかった。本年は11月末現在、4万938件で、前年同期と比べ5千件以上増加し、既に前年の総受理件数を上回った。

全通報のうち、いたずらやかけ間違いなどの警察が措置を要しない通報が、令和3年中は約15パーセント、本年も11月現在で約20パーセントを占めているので、緊急を要する事案に迅速、的確に対応できるよう、引き続き、110番通報の適切な利用について広報啓発活動を推進していく。

委員

110番通報の適切な利用をしていただかないと緊急時の妨げになるので、この広報は、大切であると思う。また、スマートフォンを持っているのが当たり前の社会になっているので、「110番映像通報システム」の周知を引き続きお願いする。

委員

通報内容が緊急性のない場合は、どういう対処をしているのか。

警察本部

警察安全相談などの緊急性のない場合は、相談窓口等の電話番号を案内している。

委員

通報者に対しては丁寧に対応し、迅速につないでいただきたい。#9110の周知が進んでいないように感じるので、若い方であればソーシャル・ネットワーキング・サービスを、高齢の方であればケーブルテレビを活用するなど、年代によって広報媒体を使い分け、周知を図っても良いと思う。

委員

この#9110に対応する職員は、常駐しているのか。

警察本部

警察安全相談電話に対応する職員2人が常駐している。

(4) 交通部ベーシック研修会の開催（交通部）

警察本部

交通部ベーシック研修会は、交通専務員の育成方策の一環として、若手交通専務員が普段感じている基本的な疑問について事前アンケートを実施し、その要望

や意見を反映させた研修を行うことによって、若手交通専務員の早期戦力化を図ることを目的として、平成28年度から開催している。

今年度の研修会の受講者は、交通専務員で交通専務経験が通算2年以内の警部補以下の階級にある警察官21人であった。

研修会は、若手警察官の要望にできる限り応えることができるよう、事前アンケートの内容を踏まえて実施し、受講者からは、「疑問が解決した。」、「研修の時間をもっと長くしてほしい。」などの反響があった。今後とも、受講者の意見等を踏まえ、より若手警察官等の疑問に答える研修内容に改善していくことで、交通部の人材育成を図っていく。

委員

この研修会は、交通部の基礎になる大切な研修である。交通環境や法律も年々変わっているが、一方で、社会的反響の大きい事案も発生しており、適切な対応が求められる。

電動キックボードなど、新しい乗り物が出てきているが、基礎的な知識がないと指導などができないと思うので、研修会などを通じて、基礎的な知識を身に付けていただきたい。

研修会の受講者は、交通専務員とあるが、どのような部署の方なのか。

警察本部

警察署の交通課、警察本部の交通部門に配置となった警察官である。

委員

若手警察官の育成には、サポートが必要であると思うので、このような研修会を通じ、人材育成に取り組んでいただきたい。

委員

交通部門は、県民が警察の力を最も頼りにする分野の1つであるので、若手警察官は経験が浅い中で対応しなければならず大変だと思うが、頑張ってください。

(5) 冬期道路交通確保対策（交通部）

警察本部

過去の記録的な降雪や大雪の影響により、断続的な車の立ち往生や渋滞が発生したことを受け、平成29年に県内及び隣接県の道路管理者等の関係者が参加する冬期道路交通確保対策会議が発足している。

今年は、例年に比べて雪が多いと予想がされていることから、県内の冬期における大雪等の異常気象等による主要幹線道路の不通や交通渋滞を回避する対策に

ついて報告するものである。冬期道路交通確保の基本的な考え方として、1つ目は、広報活動の実施がある。広域迂回の促進及び不要不急の外出を抑制する広報として、国土交通省の近畿・九州地方整備局やNEXCO西日本、道路管理者との連携、記者発表、ホームページ、ソーシャル・ネットワーキング・サービスなどを活用した広報を実施する。2つ目は、除雪の実施がある。大規模な車両滞留及び地域住民の孤立を防止するため、国道9号、山陰自動車道、国道53号及び鳥取自動車道の除雪を行い、交通を確保することとしている。

事前対策として、11月2日及び18日に冬期道路交通確保対策会議が開催された。また、12月8日には、スタック車両等に伴う交通渋滞対応について関係機関と訓練を実施した。啓発活動として、関係機関の連名によりトラック協会への協力依頼文を发出したほか、冬用タイヤ早期装着啓発活動を実施した。そのほか、関係機関によるホットラインの構築及びリストを作成して関係者間において有事に備えている。気象情報発令時の対応として、事前に関係機関による連絡会議を開催し、ウェブカメラなどを活用して情報共有を図り、必要な情報を鳥取県内道路ライブカメラ、とっとり雪みちNavi、あんしんトリピーメール、防災アプリ、防災無線等を活用して、住民、ドライバー、企業等に広く広報することとしている。

今年度の除雪体制は、各道路管理者とも過去の経験を教訓に相当数増強して、有事に対応することとしている。警察に対する協力依頼として、雪害対策訓練参加や冬用タイヤ指導を実施した。現在、年末の交通安全県民運動実施中で、年末警戒の最中でもあることから、安全安心、人命を最優先に、冬期道路確保対策等、諸対策に努めていく。

委員

除雪体制も以前に比べて改善され、昨年も速やかに除雪がされていた。一方で、スタック車両の発生が懸念されるので、素早い対応をお願いする。吹雪の中で事故処理をすと思うが、警察官には、二次災害に十分注意していただきたい。

委員

冬期の道路交通確保対策は、年々対応がスムーズになってきている。事故を未然に防ぐため、通行止めや除雪が行われるが、これらの広報は県民にきちんと届いている。冬用タイヤ指導を行っているとのことだが、若い方など、冬用タイヤの重要性などを十分に理解していない方もいるので、タイヤチェック指導をしつかりしてほしい。

委員

車道を除雪すると、除雪した雪が歩道に溜まって、歩行者と自転車が車道に出てくるといった状態が発生する。車も歩行者や自転車を追い越すに追い越せないという状況になり、そういった時は、この歩道は放置されているなという印象を持つことがある。

警察本部

市から補助を受けて、自治会毎に小型の歩道用の除雪機を備え、子どもたちの通学路を確保しているという地区もある。

委員

歩道の除雪に関しては、自治体や地域住民の対応ということか。

警察本部

そのとおりである。

委員

特に夜間は、車道を歩く歩行者に気付くのが遅くなり、危ないと思うので、警察側としても対応できる部分があれば、考えていただきたい。

警察本部

警察は、交通管理者ということで、道路管理者側に、道が滑りやすくなっているとか、積雪が多いとか、歩道があまりにも危ないというところをお願いをしたり、事故防止のために指導、助言することは可能であるので、そういったことで道路管理者と連携したいと思う。

(6) 1月中の入校及び訓練概況等（警察学校）

警察本部

1月中の入校関係は、初任科第96期の採用時教養を引き続き行い、初任補修科第43期が1月10日から入校する。また、3課程の任用科を予定している。

行事・訓練関係は、年頭の学校長点検のほか、大山登山訓練、LGBT講習等を予定しており、1月31日が卒業式である。そのほか、刑事部長訓育、柔剣道昇段審査も予定している。初任補修科は、1月10日が入校式で、鑑識技能検定などを予定している。

12月中の行事・訓練関係は、初任科生が卒業考査、10キロマラソン、拳銃操法の検定を行った。今後、障がい者に関する正しい知識と理解を身に付け、県民に寄り添う警察官を育成することを目的として、障がい者に関する研修を行う予定である。また、炊き出し訓練、人材育成課長による訓育、校内逮捕術大会も予定している。

委員

初任科生は、警察学校卒業まで1か月となったが、現在はどのような様子か。

警察本部

現場に出ることに対して、若干不安に感じている様子が見受けられる。

委員

LGBT講習は、いつ頃から実施しているのか。

警察本部

令和2年から実施している。

委員

LGBTに関する教養は、とても良いことなので、学んだことを現場で生かしていただきたい。初任科生は、間もなく卒業だが、しっかり体調管理して、残りの警察学校での生活に取り組んでいただきたい。

失敗は必ずあるので、初任科生には、リカバリーの方法を卒業までに繰り返し学び、少しでも自信を持って現場に出ていただきたい。

警察本部

初任科生に対しては、失敗をしたら報告することや、その失敗を次に生かすよう日頃から指導している。

委員

初任科生は、現場に出る自信がなかなか持てないと思うが、警察官は1人で仕事しているのではなく、周囲の方と一緒に仕事しているということを声掛けして、少しでも現場に出る自信を持たせていただきたい。

5 その他

2022年度全日本ライフル射撃競技選手権大会（センターファイアピストル）優勝報告

警察本部

令和4年12月9日から3日間の日程で、広島県つつがライフル射撃場で開催された、2022年度全日本ライフル射撃競技選手権大会（センターファイアピストル）において、当県警察の警察官が、参加選手67人中1位で優勝し、日本一の栄冠に輝いた。

委員

このような方が県警察の中にいるということで、県警察のレベルアップにもつなげていただきたい。

第2 その他の公安委員会活動

1 意見の聴取

運転免許課から、道路交通法に基づく意見の聴取3件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

2 事前説明

- ・女性職員活躍推進セミナーの開催結果

3 報告事項

- ・2022年度全日本ライフル射撃競技選手権大会優勝報告
- ・監察報告
- ・暴力団情勢
- ・令和5年鳥取県警察嘱託警察犬等嘱託書交付式の開催
- ・交通安全広報動画
- ・大規模警備対策委員会の開催結果

4 決裁

- ・警察行政手続サイト対象手続の追加に伴う告示
- ・特定抗争指定暴力団等の指定期限の延長

5 公安委員会委員間の事前検討・協議等

6 公安委員会補佐室からの事務連絡等

公安委員会補佐室から当面の行事予定等について確認と説明があり、了承した。